

ishiankai ^[シンカ]

人と人、医師と医師会をつなげ、これからも**進化**し続ける



新年のごあいさつ

大迫 政彦病院長

診療科のご紹介

婦人科 山崎 英樹部長

認定看護師のご紹介

がん化学療法看護認定看護師



病院長
大迫 政彦

新年のごあいさつを申し上げます

昨年は病院開設から40周年の節目の年でした。乳腺・甲状腺外科の立ち上げや、緩和ケア内科の充実などを進められた一年だったと思います。消化器科ではマンパワーを増やしつつあり、新年度には消化器内科の常勤医が増える予定です。限られた日数ではあるものの、胃ろう造設も再開しております。

また、救急の要請にできるだけ対応するための体制も昨年から整えてまいりました。中でも高齢者救急のニーズはまだまだ高いはずですので、しっかり対応していきたくと考えています。今後は介護施設との連携も欠かせなくなるでしょう。必要に応じて、当院からの往診といった体制も備えていくべきだろうと思っているところです。

訪問診療をしている先生を含め、地域の先生方のかかり

つけ患者さんにもし具合が悪くなるようなことがあれば、当院の連携室を軸にして、すぐに連絡が取れるように今年も尽力してまいります。ご紹介いただいた患者さんを必ず受け入れるよう努めるのはもちろん、当院でできることはできる限り院内で対応する。また、鹿児島大学病院や鹿児島市立病院といった高度急性期病院ともよく連携を図り、「そこから帰って来られた患者さんはまた必ず地域にお返しする」という流れはきちんと守ってまいります。

新年度は健診業務の拡充をめざす他、新しい取り組みも計画しています。昨年は会員の先生方のクリニックに足を運び、さまざまなお意見を伺う機会を頂き感謝しております。今年も顔の見える関係づくりに注力しますので、よろしく願いたします。

診療科のご紹介

県内全域からの紹介患者に 質の高い内視鏡手術を提供

当科では子宮筋腫、卵巣腫瘍、子宮内膜症などで手術が必要な方に、内視鏡手術（腹腔鏡下手術・子宮鏡下手術）を基本としています。開腹手術は少なく、ほぼすべて内視鏡手術といってもいいでしょう。県全域からご紹介いただき、きちんとした手術をしてお返しすることでまた送ってもらえる良い循環が生まれています。結果的に県内における婦人科良性疾患の内視鏡手術のうち、その大半を当院が担っており、全国的に見ても症例数が非常に多いのが大きな特徴です。

一方で、患者さんには常時数カ月お待ちいただく状況で、それでも難しい症例の方が退院される時の顔を見ると、「私がやらなければ」という気持ちになります。当院だからこそ、安全に短時間で内視鏡手術ができると自負しています。



やまさき・ひでき

1995年福岡大学医学部卒業後、鹿児島大学産科婦人科学教室入局。同大学病院、鹿児島県立大島病院、出水市立病院、鹿児島市立病院などを経て、同大学大学院医学研究科へ。その後、出水総合医療センター、同大学病院に勤めた後、2011年鹿児島市医師会病院入職。現在、婦人科部長を務める。今も籍を置く鹿児島大学とも連携し、年間600件超の婦人科内視鏡手術（2022年度）を担う。日本産科婦人科学会専門医。

婦人科 山崎 英樹部長

患者に選択肢を提示し 選ぶ自由を与える医療を

患者さんは月経困難症や過多月経でお悩みの方がほとんどです。20〜40代の社会人が中心だけに、傷が小さく、早く社会復帰できる内視鏡手術は大きなメリットです。仕事、結婚、妊娠とそれぞれのライフステージを思い描く中で、皆さんとても忙しいのに月経痛などでつらい思いをしている。そんな方々の生活をどうにかして導いてあげられたらと思っています。

治療の選択肢は内視鏡手術やホルモン療法と多様ですし、手術にしても子宮や卵巣を取るか残すかなど、さまざまな術式が考えられます。時にはまだ経過観察で大丈夫な方もいます。プロの目で診てたくさんの選択肢を提示し、「選べる自由」を提供することは私の大事な仕事です。そのためにも、地域の先生方には、「悩んだらまずご紹介ください」とお伝えできたらと思います。迷ったら紹介していただいて構いません。患者さんとご相談しつつ、一人ひとりにオーダーメイド医療を提供します。

認定看護師のご紹介

がん化学療法看護認定看護師

がん化学療法を受ける患者へ、専門知識を生かして安全な投与管理や副作用のケアなどを担う。患者や家族が安心して治療を続けられるような看護を実践するとともに、看護師間の相談や教育でも役割を果たしている。



看護師 丸野 なお子



看護部副師長 三浦 ひとみ



看護師 寺嶋 圭子

多くの認定看護師が活躍していることは当院の大きな特徴です。今回はがん化学療法看護認定看護師の三浦副師長（資格取得2006年）、丸野看護師（同2009年）、寺嶋看護師（同2020年）に話を聞きました。

認定看護師をめざした理由や、院内での役割、日頃心がけていることなどを教えてくださいませんか？

三浦 化学療法による患者さんのつらい症状を少しでも和らげられたらと思い、認定看護師をめざしました。近年は副作用を軽減する薬も増えています。治療について最新の知識を得て、情報を整理した上で伝えることは私たちの大事な役割の一つです。

寺嶋 日常生活を送りながら治療を受ける患者さんの多さに驚き、何かできることはと考え資格を取りました。最近は経口の抗がん剤も増えているため、服用状況や副作用をチェックしたり、がん患者さんへの告知に同席して不安を軽減したりといったサポートも担っています。

丸野 私がめざしたのは、当時まだ支持療法が不十分だったことや、身近で医療事故が起きたことがきっかけです。当院には昨年入職し、患者さんのケアにプラスなことを積極的に行える環境が素晴らしいと感じました。

三浦 一人ひとりに向き合える時間が持てることは当院の強みですね。患者さんと接する際、私は病気以外の話も必ずしています。患者さんが大切にしていることを聞く中で、小さな変化に気づけるときがあるからなんです。

丸野 その方の背景がわかれば、副作用まで考慮した治

療の選択ができるかもしれません。そのためにまずは何でも話してもらえよう優しさを大切にしています。

寺嶋 相談してもらいやすい雰囲気は私も意識していることですね。患者さんが頑張りすぎないように「ちょっと休むのも一つの治療だよ」とも必ず伝えています。

地域の先生方へのメッセージをお聞かせください。

寺嶋 紹介元の先生と連携を図りながら、治療や今後の生活を支援していくことが大切だと思っています。特に遠方の患者さんはかかりつけ医の役割が重要になりますので、何でもご相談いただけたらと思っています。

丸野 これまで多くの患者さんに対応してきた経験が糧になっていると感じます。当院は認定看護師が3人もおり手厚いケアができますので、地域の先生方に「安心してご紹介ください」と胸を張ってお伝えしたいですね。

三浦 先を見越して「なるべく副作用が残らないように」との思いで大事な治療期間の看護に努めています。患者さんが地域の先生方のところに戻られた後もお元気でられるよう、これからも頑張っていります。

ホームページ
リニューアル

